保育士と親で考えるワーク・ライフ・バランス(2)

—親が考える親役割重要度評定の実態把握—

○大森弘子¹・太田仁²

(¹佛教大学・²梅花女子大学)

キーワード: 親役割、ワーク・ライフ・バランス、保育士

Views on the Balance of Work and Life by Teachers and Parents

Reexamination of Parenting and the Balance of Work and Life (2)

Hiroko OHMORI¹, Jin OTA²

(¹Bukkyo Univ., ²Baika Women's Univ.)

Key words: Parenting, the Balance of Work and Life, Teachers

目 的

不安定な日常生活の中で仕事と家庭の調和(ワーク・ライフ・バランス、以下WLB)がとれないと苦しむ人がある。たとえば長時間労働と家事の両立、仕事と子育ての両立、仕事と介護の両立などである。特に、経済的理由と相まって、乳幼児を持つ母親の就業率が1990年代半ばから直近まで上昇し続け(内閣府,2010)、女性の仕事と子育ての両立は緊急の課題となっている。しかし、仕事と家事・子育ての優先度の現実、男女ともに「仕事優先」の割合が高くなってしまっている(男性74.0%、女性31.2%)(厚生労働省,2009)。こうした共働き世帯の家庭の変化が社会的関心事となり、親が家庭役割、仕事役割、加えて地域の役割といった多重役割(multiple roles)をこなしていかなければならないという、仕事をとりか家庭をとるかといった葛藤(ワーク・ライフ・コンフリクト、以下WLC)の問題に直面している。そうした乳幼児を持つ働く親を支援するのが保育士であり、親が置かれている多重な状況を構造的に理解できる指標を保育士と親が共有することが求められている。

本研究(1)(2011)では、まず保育士が期待する親役割を明らかにするためアンケート調査を実施した。その結果から、親の『愛情表現の不足』、『基本的生活習慣の認識不足』、『共感性の欠如』、『保育士・保育園との連携不全』といった保育現場の厳しい実態が明らかにされた(大森・太田,2011)。また、「親役割の構造」を検討するため、保育士が期待する親役割についてアンケート調査を行った結果、保育士が期待する親役割は、『個人的生活基礎訓練』、『社会的生活基礎訓練』、『WLB』、『育児スキル』、『親役割受容』、の5因子が抽出された(大森・太田,2011)。

本研究(2)では、親役割重要度評定を通じて、伝統的な親役割規範を見直し、WLCを低減できる新たな親役割規範を解明することを目的とし、多重役割を担う現代社会の当事者である働く親が考える「親役割重要度評定」の実態把握に関する情報を収集した。

方 法

調査時期 2011年2月～3月

調査対象 調査に同意を得た関西の5ヶ所の保育園の親98名に対して、調査者が質問紙を配布・回収した。

性別年齢構成 98名(男性4名、女性94名)、平均年齢は35.61歳(SD=6.10)

分析方法 大森・太田(2011)の保育士を対象とした親役割期待尺度とワーク・ライフ・バランス(金井,2002)から収集したデータから、第一筆者、第二筆者、保育士経験25年の主任保育士の3名が尺度の内容を選別し、それらから48項目を選定した。回答は全く重要でないと思う(1点)～とても重要である(4点)の4件法で回答を求めた。

結 果

親が考える親役割重要度として98名から回答を得た。主因子法・バリマックス回転で因子分析を行ったところ、3因子が抽出され、因子項目内容から、第Ⅰ因子を『WLB』($\alpha=.876$)、第Ⅱ因子を『育児スキル』($\alpha=.786$)、第Ⅲ因子を『親役割受容』($\alpha=.715$)と命名した(Table 1参照)。

Table 1 親が考える親役割重要度評定の因子分析結果(Promax 回転後の因子パターン)

	I	II	III
安心して信頼できる子育て仲間を作る(インターネット友達も含)	.89	-.22	-.06
知る喜びを親子で共有する	.72	.02	-.05
親自身がのんびりする時間を持つ	.72	-.24	.05
家族みんなで散歩やピクニックに出かける	.68	-.01	.16
いろいろな友達と遊べるように配慮する	.65	.07	-.11
些細な事でも保育士に相談する	.64	.18	-.12
親として出来るだけのことはしている	.60	-.07	-.14
家庭での子どもの様子や対応を保育士に伝える	.54	.23	.00
子どもが初めて経験することは私(親)と一緒にやるようにしてい	.49	.19	-.03
子どもの理解について園の先生と意見が異なる時は納得いくまで話	.48	.17	-.19
子どもの興味・関心や疑問に誠実に応える	.45	.15	.28
家庭でのストレス・職場でのストレスを各々うまく処理している	.33	-.02	.18
園に預ける補充用の服やオムツを毎日確認する	-.11	.81	-.09
全ての持ち物に名前を書く	-.30	.77	.20
登園・降園時、子どもの様子に配慮する余裕を持つ	-.01	.69	.03
家族の安心安全な関係を作る	.10	.53	-.06
子どもの発達に配慮し、家族全員が規則正しい生活リズムを守る	.25	.49	-.18
子どものトイレの間隔や好き嫌い、だいたい把握している	.04	.49	-.35
子どもの成長にあったルールやマナー、スキルを身につけさせる	.24	.34	.30
子どもには早く大きくなって欲しい反面、私から離れていくのが淋	.11	.31	-.29
先回りして答えを与えずに、できるだけ子どもに考える時間を与え	.11	-.08	.73
子どもを褒めるより叱ることの方が多い※	.06	-.38	.66
何かに興味を示しているときには、そっと見守る	-.03	.06	.57
よその子どもと比較して欠点に気になる※	-.26	-.03	.54
子どもが間違っても、叱らないでなぜ間違いかを一緒に考える	.08	.11	.53
おとなの基準で生活態度を注意する※	-.14	-.12	.53
子どもの良いところを見つけて褒める	.16	.19	.47
子どもが自分自身で考える時間を持つように配慮する	.165	.325	.41
因子間相関	I	II	III
I	—	.71	.55
II		—	.55
III			—

保育士と親の親役割で共通する因子は『WLB』、『育児スキル』、『親役割受容』であったが、親が考える親役割重要度評定には、『個人的生活基礎訓練』、『社会的生活基礎訓練』に直接触れた因子は得られなかった。

考 察

保育園における子育て支援の役割の重要度が高まっている現状で保育士間にある規範的親役割を再吟味することは重要である。しかし、Table 1にも示されているように、親が考える「親役割」には、保育士が親役割に期待した『個人的生活基礎訓練』、『社会的生活基礎訓練』が含まれておらず、ここに親と保育士との思いのズレがあることが分かった。このズレを解消するため、『個人的生活基礎訓練』、『社会的生活基礎訓練』の項目の検討が必要である。また、保育士の職務が保育士保育指針第6章で「(保育士の)その専門性を生かした子育て支援の役割」と謳われ、子ども子育て新システムが実施されようとしている今、保育士は親の背景にあるWLBを含んだ生活理解とそれに伴う感情の動きへの心情理解と共感が大切である。その前提として、現実の社会環境に適応した親役割について親と保育士が共有する必要がある。(本稿は2011年度佛教大学特別研究費に基づく研究成果の一部をまとめたものである。)